

◎十人寫生旅行 (瀬戸内海小豆島)

日本橋區馬喰町二丁目 興文社發行

昨年十一月太平洋畫會の幹部、中川、石井、廉子木、吉田、満谷、高村、小杉、大下諸氏が、小豆島に二週間程寫生旅行を試みた。その時の製作スケッチ等八十五點を、三色版、石版、寫生版、ジントク版、木版、寫眞石版等あらゆる様式の版形にて複製し、添ふるに七十頁の紀行通信をもつてせり。瀬戸内海に在つて周圍三十餘里の小豆島は、此冊子によつて普ねく紹介せられたり。此書、版式の上のみならず、繪には水彩あり油繪あり毛筆あり、鉛筆又はペン畫もありて、變化極めて多く、猶一行のほかに、中村不折氏も會遊のスケッチによつて三四の挿圖を加へられたり。裝釘淡雅 (定價二圓特價一圓六十錢)

◎新譯繪本水滸傳 小杉未醒著

神田區小柳町十三 佐久良書房

菊判洋裝六百頁、定價金貳圓送料十六錢

誰れも知らぬものゝない水滸傳、それには澤山譯文はあるが、徒らに原書の文字に拘泥するためか、作者の意を傳へたものは少ない。吾が未醒君は水滸傳中の人ではあるまいが、水滸傳中の人を好む人である、この人は、その繪筆が、よく簡潔に景物を捕捉し紙面に躍らすが如く、その文字かく筆も滯滞なく動き、快よき迄情景を現はしてゐる。挿入の繪畫は無論著者自身の筆、これは今更紹介する迄もあるまい、實に近來の一快著である。裝釘また清楚。

◎文學界 第一卷第一號 菊判九十餘頁の雜誌にして文學とい

へど、歴史地理教育倫理等、重に硬文學に關する事項を集めた。由來詩歌小説等軟文學の雜誌のあまりに多きに苦しむの際本誌の如きはたしかに時勢の反動より起りしものなるべし。(一部十五錢、神田區裏神保町、光風館)

◎中學文壇 (十三卷第四號) 中學生向の質素なる雜誌なり。(一部十一錢、芝區二本榎、中學文壇社)

◎ルフラン水彩繪具 文房堂發賣

佛國製の大型チューブと同形で。各色四十七種。發色はいづれも悪くないが、質はニューマンやニュートンの美術家用に比して粗である。價はよく分らぬが十三錢から三十錢位迄であらう。學生用としてB印などより遙かに上等である。

一關淡彩會は、事務所を岩手縣一關町八幡街坂本健方に置き、目的は洋畫の發達進歩。事業は毎月寫生會及び批評會を開き、毎年一二回展覽會を催す。また毎月一回『青風』と題する廻覽雜誌を作り會員の機關とす。記名料十錢。會費毎月五錢。規則入用の方は事務所に申出でられたし。

* * * * *